

小笠原諸島における主な自然再生事業等（環境省関係）

○世界遺産の管理

番号	事業項目	事業内容	26年度	27年度
1	小笠原諸島世界自然遺産地域における自然再生事業拠点整備の検討	小笠原諸島世界自然遺産地域の管理のために必要な、新たな拠点整備を含めた、ハード・ソフト両面の総合的なシステムを構築するための設計（変更）を行う。	遺産センターの実施設計（変更）・運用等の検討	遺産センターの実施設計（変更）・運用等の検討・施工
2	小笠原諸島世界自然遺産地域順応的管理検討	管理計画を踏まえて、科学委員会や地域連絡会議の運営等により、自然生態系保全の方向性や特定重要課題への対応等について検討する。	継続	継続

○生態系の保全・外来生物対策

番号	事業項目	事業内容	26年度	27年度
1	小笠原諸島ネズミ対策検証委員会	ネズミ対策に係る過去の事業の実施に至る経緯及び環境影響について、専門家による委員会を設置して検証するとともに、今後の外来ネズミ類対策事業のあり方について助言を頂く。	第1回検証委員会の開催及び地域への説明会の開催等	第2回以降の検証委員会の継続
2	小笠原国立公園陸産貝類保全調査	陸産貝類の保全のための域内保全（兄島）、域外保全を行う。	H26年度は父島の個体群の域外保全を行った。	H26年度の殺鼠剤の空中散布の中止に伴って、兄島でのネズミ食害対策等の域内保全を実施予定。
3	小笠原地域自然再生事業プラナリア拡散防止対策及び陸産貝類域外保全	陸産貝類の生存にとって脅威となる貝食性のプラナリアであるニューギニアヤリガタリクウズムシの対策として、プラナリアの侵入の防止、陸産貝類の域外保全等を行う。	プラナリア侵入防止柵の設置（鳥山地域）	プラナリア侵入防止柵の維持に加え、ネズミ対策含め、父島鳥山地域での陸産貝類の域内保全を行う。
4	希少昆虫（保護増殖事業）	カガサワジミ、カガサワハミョウ、トンボ類の生息状況の安定化を目指し、生息状況を把握、必要な対策を検討・実施	・生息状況・環境調査 ・環境整備 ・ハンミョウ域外保全 等	調査、環境整備を継続する他、父島島内におけるハンミョウの域外保全体制を確立する。
5	小笠原国立公園グリーンアノール重点防除業務	昆虫類を捕食することに寄る生態系全体への脅威となるグリーンアノールの対策として、兄島、父島、母島でグリーンアノールの排除等を行う。	兄島における、アノールのセンサス、保全対象種の調査、アノールの捕獲、捕獲柵の設置等	継続（ただし、アノール関連対策を統合して実施）
6	アカガシラカラスバト（保護増殖事業）	ハトの標識放鳥等による生息状況調査等の実施	・生息状況調査 ・関係機関による取組の今後5年間の計画を策定 ・連絡会において、事故等の現地トラブルの対策を実施	継続
7	オガサワラオオコウモリ（保護増殖事業）	関係機関との情報共有	・地域課題WGの開催による情報共有の実施 ・餌資源の確保等	・鳥獣保護区特別保護指定区域の適正管理 ・共有された課題解決のための、保全対策を検討

8	小笠原国立公園ノネコ対策調査	小笠原諸島（父島、母島）の山域におけるノネコの排除を行う。	継続	継続（母島においても実施する。）
9	希少植物（保護増殖事業）	諸島内の希少植物12種について、モニタリング、生育環境改善対策、人工増殖、域外保全等を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・対象種の保全方針の検討 ・モニタリング ・人工増殖（人工授粉等） ・環境改善（外来種駆除等） ・域外保全 	継続
10	外来植物対策	希少昆虫類の生息地保全、希少植物の生育地保全、景観確保の観点から外来植物駆除を実施	継続	継続
11	母島外来種侵入拡散防止対策	母島に未侵入であるプラナリアが侵入していないかモニタリング、侵入した場合の事前準備としての陸産貝類の試験飼育などを実施	継続	継続

○国立公園の管理等

番号	事業項目	事業内容	26年度	27年度
1	海岸ゴミ清掃	海鳥、ウミガメの繁殖地保全、景観美化を目的とした海岸漂着ゴミの清掃を行う	聳島、弟・兄・西・父島で実施	聳島、父島列島を中心に実施予定